

2021年2月7日

## 日本メドトロニック、てんかんの定位的深部電極挿入術および脳腫瘍生検術に用いる脳神経外科手術用ロボティックシステム「ステルス Autoguide™」が保険適用に

日本メドトロニック株式会社（本社：東京都品川区）は、てんかんの定位的深部電極挿入術および脳腫瘍生検術に用いるロボティックシステム「脳神経外科手術用ナビゲーションユニット ステルス Autoguide（オートガイド）」（以下、ステルス Autoguide）の製造販売承認を2020年9月17日に取得し、2021年2月1日より保険適用されたことを発表した。

てんかんの治療には薬物療法と外科療法があり、薬物療法で発作が抑制されない難治性てんかんに対して、外科手術による治療が検討される。てんかんの患者数は日本全体で約100万人と言われており、その2～3割が難治性てんかんと考えられている。

ステルス Autoguide は、術前に作成した手術計画に基づき、ステルスステーションナビゲーションシステムと連動することで、高い精度が求められる電極を挿入する位置と脳深部の測定位置の両方の位置合わせをロボット制御により自動で行う。ステルス Autoguide のような定位手術ロボットの登場で、多数の深部電極をより短時間かつ高い精度で挿入することができるようになり、大きな侵襲（開頭）を伴う硬膜下電極留置を代替することが期待される。

メドトロニックでは、ナビゲーションとロボット技術を融合するなどの手術手技全体を繋げる技術を通じ、多くの患者により良い治療を提供すべく取り組んでいくとしている。